

2. 概 要

2-1 入港船舶の概要

気仙沼港入港船舶前年比較表

内・外航船別		平成21年 (A)	構成比 (%)	平成20年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	隻 数	5,022	100.0	4,776	246	105.2
	総トン数	1,457,388	100.0	1,398,718	58,670	104.2
外 航 船	隻 数	4	0.1	1	3	400.0
	総トン数	6,216	0.4	3,496	2,720	177.8
内 航 船	隻 数	5,018	99.9	4,775	243	105.1
	総トン数	1,451,172	99.6	1,395,222	55,950	104.0

平成21年における気仙沼港の入港船舶は、隻数が5,022、総トン数が1,457,388総トンであり、前年と比較して、隻数で246隻（5.2%）減少し、総トン数では58,670総トン（4.2%）増加している。

トン数階級別では、100総トン以上500総トン未満の船型が4,726隻と最も多く、全体の94.1%を占めている。

(1) 外航船

外航船は、隻数で4隻と前年より3隻（300.0%）増加し、総トン数では6,216トンと2,720総トン（77.8%）増加している。

トン数階級別では、1,000総トン以上3,000総トン未満の船型が3隻と最も多く、外航船の75.0%を占めている。

(2) 内航船

内航船は、隻数で5,018隻と前年より243隻（5.1%）増加し、総トン数では1,451,172総トンと55,950総トン（4.0%）増加している。

トン数階級別では、100総トン以上500総トン未満の船型が4,726隻と最も多く、内航船の94.2%を占めている。

2-2 海上出入貨物の概要

気仙沼港海上出入貨物前年比較表

区 分		平成21年 (A)	構成比 (%)	平成20年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計		817,431	100.0	821,336	△ 3,905	99.5
外貨貨物	輸 出	2,500	0.3	0	2,500	—
	輸 入	0	0.0	0	0	—
	計	2,500	0.3	0	2,500	—
内貨貨物	移 出	285,644	34.9	260,436	25,208	109.7
	移 入	529,287	64.8	560,900	△ 31,613	94.4
	計	814,931	99.7	821,336	△ 6,405	99.2

平成21年における気仙沼港の取扱貨物量は817,431トンであり、前年と比較して3,905トン(0.5%)減少している。

そのうち、外貨貨物は2,500トンで全体の0.3%、内貨貨物は814,931トンで全体の99.7%となっている。

気仙沼港主要取扱貨物前年比較表(81品目)

品 種	平成21年 (A)	構成比 (%)	平成20年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	817,431	100.0	821,336	△ 3,905	99.5
999 自航(フェリー)	556,990	68.1	519,710	37,280	107.2
311 重 油	116,236	14.2	128,176	△ 11,940	90.7
321 石 油 製 品	93,120	11.4	109,290	△ 16,170	85.2
211 非 金 属 鉱 物	48,585	6.0	64,030	△ 15,445	75.9
081 水 産 品	2,500	0.3	130	2,370	1,923.1

取扱貨物については、自航(フェリー)が取扱貨物量全体の68.1%を占め、前年と比較して37,280トン(7.2%)増加している。

自航を除いた主な品種は、重油、石油製品、非金属鉱物であり、それらで取扱貨物量全体の31.6%を占めている。

(1) 輸 出

気仙沼港主要輸出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成21年 (A)	構成比 (%)	平成20年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	2,500	—	0	2,500	—
081 水 産 品	2,500	—	0	2,500	—

輸出は 2,500 トンで、貨物量全体の 0.3%であり、前年と比較して 2,500 トン増加している。
品種は、水産品である。

(2) 輸 入

気仙沼港主要輸入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成21年 (A)	構成比 (%)	平成20年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	0	—	0	0	—

輸入は 0 トンで、貨物量全体の 0.0%であり、前年も同様である。

(3) 移 出

気仙沼港主要移出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成21年 (A)	構成比 (%)	平成20年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	285,644	100.0	260,436	25,208	109.7
999 自航（フェリー）	278,200	97.4	259,920	18,280	107.0
311 重 油	7,444	2.6	516	6,928	—

移出は 285,644 トンで、貨物量全体の 34.9%を占めており、前年と比較して 25,208 トン（9.7%）増加している。そのうち、自航（フェリー）が移出全体の 97.4%となっているが、前年と比較して 18,280 トン（7.0%）増加している。

自航を除いた主な品種は重油であり、移出全体の 2.6%を占めている。

(4) 移入

気仙沼港主要移入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成21年 (A)	構成比 (%)	平成20年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	529,287	100.0	560,900	△ 31,613	94.4
999 自航（フェリー）	278,790	52.7	259,790	19,000	107.3
311 重 油	108,792	20.6	127,660	△ 18,868	85.2
321 石 油 製 品	93,120	17.6	109,290	△ 16,170	85.2
211 非 金 属 鉱 物	48,585	9.1	64,030	△ 15,445	75.9
そ の 他	0	—	130	△ 130	—

移入は 529,287 トンで、貨物量全体の 64.8%を占めており、前年と比較して 31,613 トン（5.6%）減少している。

そのうち、自航（フェリー）が移入全体の 52.7%となっており、前年と比較して 19,000 トン（7.3%）増加している。

自航を除いた主な品種は重油、石油製品、非金属鉱物であり、これらで移入全体の 47.3%を占めている。

2-3 施設利用の概要

(1) 入港船舶（500 総トン以上の船舶）

気仙沼港入港船舶公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭		専用埠頭		公共埠頭の比率 (%)	
	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数
平成21年 (A)	63	54,032	86	79,893	42.3	40.3
平成20年 (B)	77	61,293	103	91,406	42.8	40.1
増減 (A)-(B)	△ 14	△ 7,261	△ 17	△ 11,513	—	—
前年比 (%)	81.8	88.2	83.5	87.4	—	—

入港船舶（500 総トン以上）の係留状況について、公共・専用別にみると、公共埠頭が 63 隻の利用で全体の 42.3%を占めており、前年と比較して 14 隻（18.2%）減少している。専用埠頭については、86 隻で全体の 57.7%を占めており、前年と比較して 17 隻（16.5%）減少している。

総トン数については、公共埠頭が 54,032 総トンで全体の 40.3%を占めており、前年と比較して 7,261 総トン（11.8%）減少している。また、専用埠頭は 79,893 総トンで全体の 59.7%を占めており、前年と比較して 11,513 総トン（12.6%）減少している。

(2) 海上出入貨物

気仙沼港海上出入貨物公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭	専用埠頭	公共埠頭の比率
	(フレート・トン)	(フレート・トン)	(%)
平成21年 (A)	608,075	209,356	74.4
平成20年 (B)	583,870	237,466	71.1
増減 (A)-(B)	24,205	△ 28,110	—
前年比 (%)	104.1	88.2	—

※ 自航（フェリー）を含んだものである。

取扱貨物量について公共・専用別にみると、公共埠頭が 608,075 トンで全体の 74.4%を占めており、前年と比較して 24,205 トン（4.1%）増加している。

また、専用埠頭については 209,356 トンで全体の 25.6%を占めており、前年と比較して 28,110 トン（11.8%）減少している。